

(編入学)

平成30年度 入学試験問題

小 論 文

( 農学生命科学部 食料資源学科 )

**【注意事項】**

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙2枚と下書き用紙2枚を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 解答用紙の指定された欄に、学部名及び受験番号を記入すること。
7. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
8. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

## 問題

それぞれの図をみて下記の問いに答えなさい。

問1. 図1に1961年から2014年までの日本における水稲ならびにリンゴの生産量の推移を示す。なお、水稲とリンゴが顕著な生産量の変化を示した年はそれぞれ異なる。その原因として考えられる理由をあげるとともに、今後の気象変動への対応も含めて安定した生産量を得るための方策について答えよ。なお、イネの生産量の減少はほぼ同じ理由により4年に1回の割合で発生する傾向がある(450字以内)。

問2. 図2および3に1972年から2006年までに青森県で得られた水稲地域別平均収量、1993年の水稲地域別平均収量、ならびに近年に良食味として特Aを得た水稲品種「晴天の霹靂」について限定された作付け地域を示す。青森県ではデータにみられるように収量の異なる地域があり、特定の環境下で収量が激減したり、極端に品質が変わることがある。このような背景において、青森県の生産環境と品種開発にどのような注意が必要か意見を述べよ(350字以内)。

(x千トン)

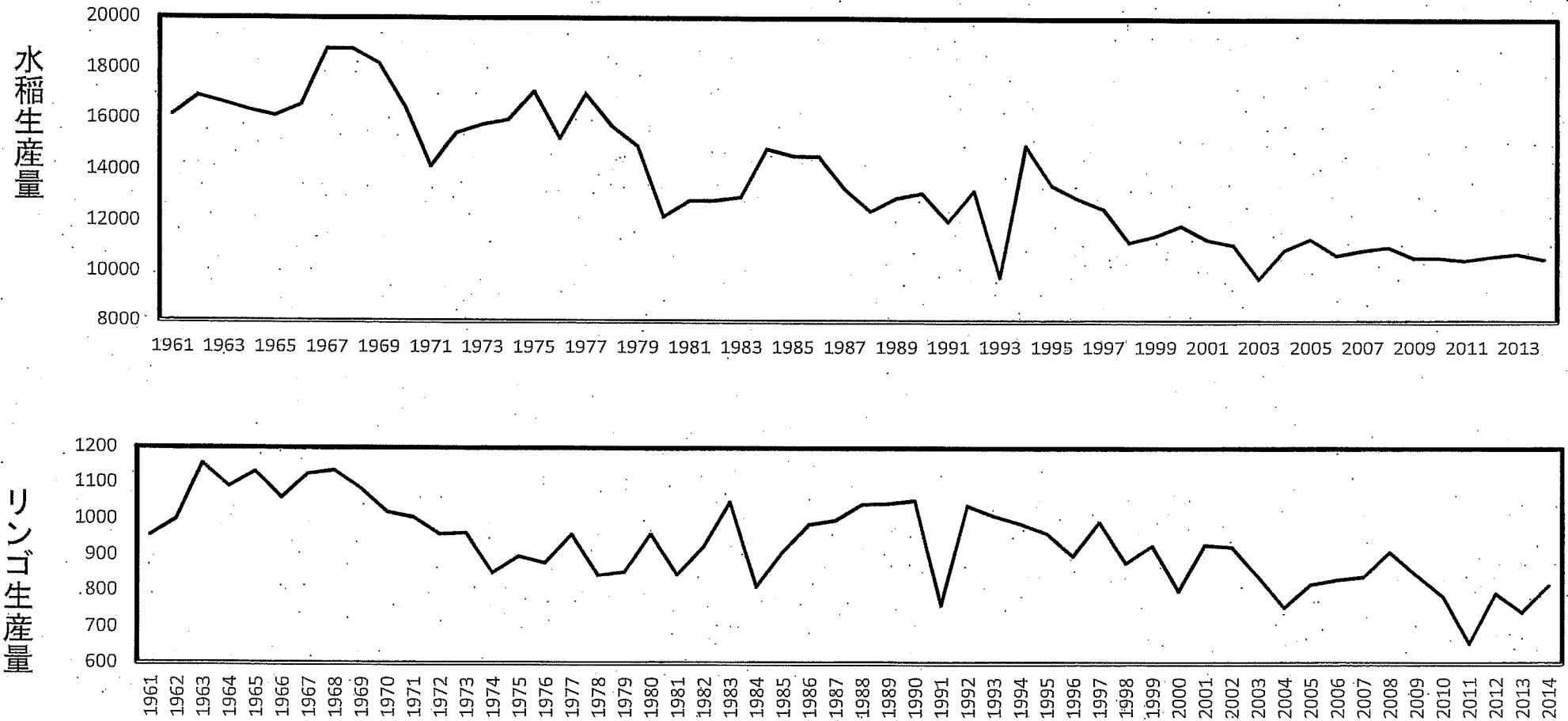
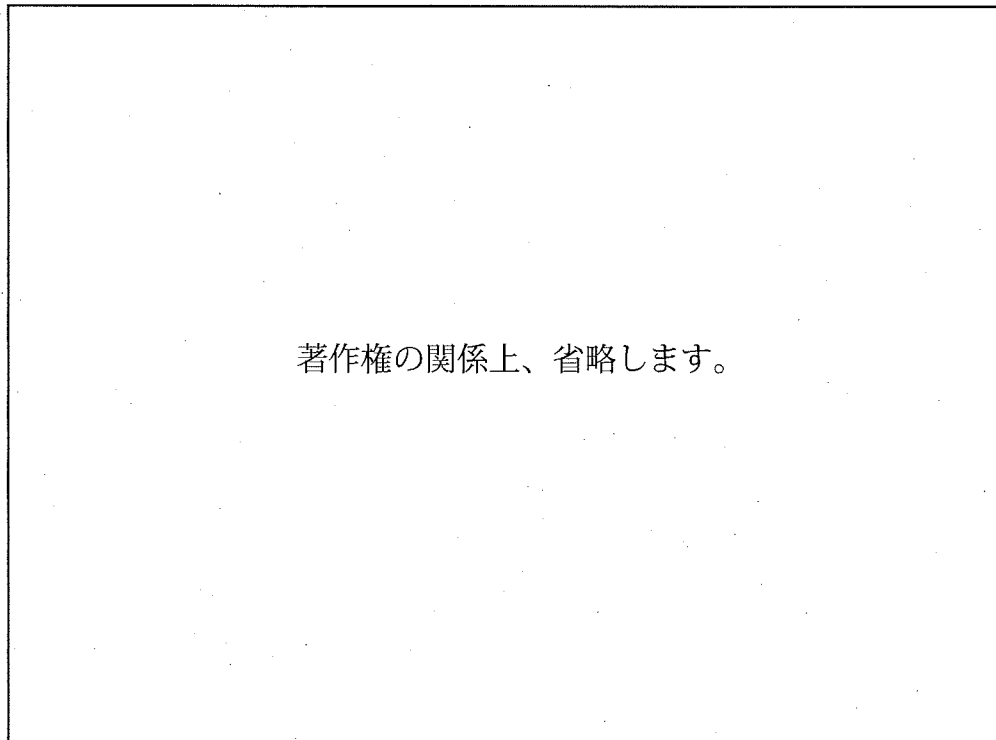


図1. 日本における1961~2014年までの水稲ならびにリンゴ生産量 (世界食糧機構FAO-STATデータ <http://www.fao.org/faostat/en/#home> より作成.)

平均収量(kg/10a)



1993年収量(kg/10a)

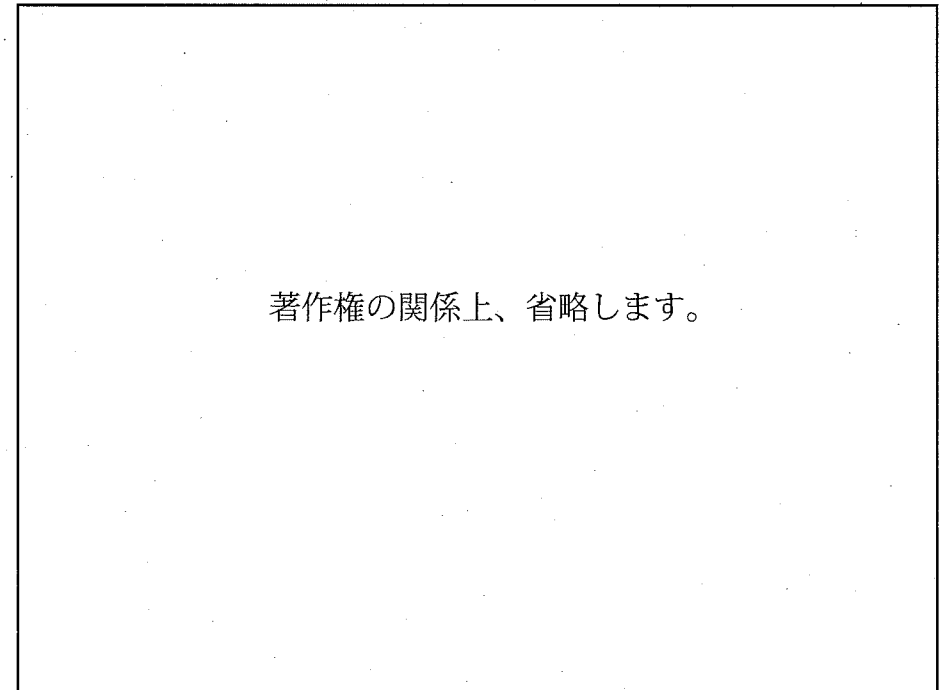


図2. 1972年から2006年までの水稻地域別平均収量(左)、1993年の水稻収量(右) (農研機構水稻冷害研究チームホームページ <http://www.reigai.affrc.go.jp/map/aomori/amy1993.html> より一部加筆作成)

著作権の関係上、省略します。

図3. 2016年に定められた「晴天の霹靂」の作付け地域(I、II) (青森県庁ホームページ [http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/seitennohekireki\\_kijun.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/seitennohekireki_kijun.html) より一部加筆作成)